花街の母

作曲:三山敏

母たこ年他 ととんの 娘えなはに のひ苦なき 暮と労れか 間にたれ がのケ妹り 欲部 し屋つ作お いでけり 前 よて笑の 顔で しし 答える私

私を残して死んだあの人を眼みますが名を流した昔もありましたが… はみにくうございます したがございます

そバあ三酒厚 れカれ味でい はにがに涙化 おさ子せを粧 前れ持かご のてちれま をものてかい 嫁夢芸つ 姿が者と あだめ るとる 座

せめてあの娘にでももう私はうぱ桜 今き宵声だ何 つににけ度 まと褄責ど死 でいとめ背の つるらでう のこといれ出い 信か女れ泣 いい花聟が見つかりますまで化街に私を置いて下さい出る幕ないわいう間です。若い妓の時代 はに十く 年乳香た て幸生福きが 過ぎ児 たの か

母たこ作年 お 6 前 9 娘 は えな \bigcirc に なこき 苦 顔 の 暮 7) か 労ぞれ لے سل に答た を ケえ妹 \bigcirc ると リ 部 私 7 屋

よ

化街の母

上曲:三山敏上詞:もす唱平

あ昔浮住左 名み褄 も 頃 あをにへ \bigcirc 娘 流 < V 9 じうだのじ ま ださざい まんずだ た る だ こいます がが ま

花街の母



にい化粧に 夏 三昧にせかれてつとめる座動 だされても夢がある \equiv あ

花街の母

作曲:三山敏

って 盛 妓 <u>り</u> (T) はアッ 時 ك いう間です

もう私はうぱ桜

でももう少しこと出る幕ないわ

街に 私を あ 娘 置 下さ

花智が見つかりますまで

5/5

3.

何度 だ سُلِّ 死 背で泣く の う لح 思 たことか

乳吞 车 過ぎた 児 の声に責められ

宵に褄とる女に も

日まで つ ٢ つか 信 は幸福が来ると て生きた